



© Shinobu Suzuki

音楽で子どもたちの心をはぐくむ

PROFILE

1971年大阪府出身。幼少時からヴァイオリンを始め、11歳でニューヨーク・フィルとの共演でデビュー。ロサンゼルスを拠点に、世界各地で演奏活動を続けている。社会貢献活動にも積極的に取り組み、92年にニューヨークに「Midori&Friends(みどり教育財団)」を、東京に「みどり教育財団東京オフィス」を設立。日本では学校や病院などで子どもを対象にコンサートを開き、2002年からは「NPO法人ミュージック・シェアリング」に組織変更して活動をしている。07年9月に国連平和大使に就任。
公式サイト：www.gotomidori.com/japan/

ヴァイオリニスト

五嶋 みどり

デビューして間もないころから、通常の演奏活動と並行して教会や病院などのチャリティーコンサートに出演していました。そのような形で社会に貢献していくことは、音楽に携わる者として、当然のことだと思っていたからです。

それから数年後、私のタングルウッドのエピソード※がアメリカの教科書に掲載されたこともあって、子どもたちから「Midoriの演奏を聴きたい」という手紙がたくさん届くようになりました。私はちょうどアメリカの都市部で音楽教育の予算が大幅に削減されたというニュースを周りの人たちから聞いていたこともあり、多くの子どもたちに本物の音楽を届けることができるといった思いがより強くなりました。

そしてどんな方法が一番良いかを考えて、学校を一人で訪問するより

は、組織を作った方が私以外の音楽家の方々にも参加してもらえる、将来的に活動に広がりも出るのではないかと思います。ニューヨークに「Midori&Friends」を設立、日本では「みどり教育財団東京オフィス」を構えて活動を開始しました。1992年のことです。そんなごく自然な形でのスタートでした。

その後、日本のオフィスは2002年に「NPO法人ミュージック・シェアリング」に組織変更し、ICEP (International Community Engagement Program) を新たに始めました。これは年1回、若手演奏家とアジアの国を訪問し、現地の子どものためにカルテット(四重奏)で音楽を届けるという活動。日本はアジアを代表する経済大国として、資金的な支援はもちろん、文化的な貢献もしていくべきです。特に将来を担う子どもたちの情

操に影響を与える音楽は大切だと考えていますし、若手演奏家にとっては、社会貢献活動を体験できる教育の場にもなっています。

今まで5カ国を訪問しましたが、こういった活動の成果はすぐに目に見える形で表れるものではありません。それでも、ヴァイオリンなどの西洋の弦楽器を見たこともない子どもたちが私たちの演奏を聴き、直接触れ合って交流することで、自分たちの知らない世界があることに気付いて好奇心を芽生えさせ、向上心をはぐくんでくれればこんなにうれしいことはありません。そうした子どもたちが大人になった時、社会は必ず変わってくると信じています。

国際協力は私にとって特別なことではありません。これからも自然体で、音楽を通じて私ができることを続けていきたいと思っています。

※86年にボストンの「タングルウッド音楽祭」で、ヴァイオリンの弦が何度も切れながらも演奏をやり遂げたという、音楽業界で語り継がれている五嶋さんのエピソード。「タングルウッドの奇跡」として知られている。